

分野別の施策

区の将来像の実現に向けた8つの方針に基づき、現状や課題、めざすべき姿やそれを実現させるための方策をまとめました。

瑞穂区は
子どもたちの人口が
増加傾向だよ。
子どもたちの笑顔が増えると
大人の笑顔も増える！
笑顔がいっぱいの
子育てのまちっていいね、
どんなまちかな。



方針 6

子育てを楽しむことができるまちづくり

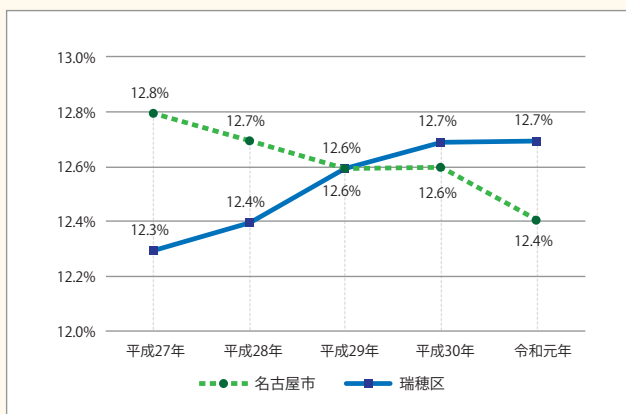
現状

名古屋市の15歳未満の人口の割合は減少傾向ですが、瑞穂区においては増加傾向にあります。そのような中、核家族化や地域のつながりの希薄化により、身近に子育ての相談をする人がいないなどの悩みを抱える人が増加しており、また、地域において年齢の異なる子ども同士の交流や大人と接する機会が減少しています。

市内に3か所ある児童相談所における児童虐待対応件数は、増加傾向にあり平成30年度に過去最多となりました。瑞穂区における件数は、16区の中では比較的少ないものの、各家庭が抱える悩みは様々で複雑化しています。

保育所等を利用できていない利用保留児童は、前年より3人増加し65人となっています（平成31年4月）。

●15歳未満の割合 *各年10月1日現在



*各年10月1日現在

瑞穂区の15歳未満の人口	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
	12,915人	13,189人	13,450人	13,579人	13,655人

●児童虐待対応件数

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
82件	108件	110件	142件	82件

※児童相談所及び区役所において対応した件数

将来像Ⅳ

子どもが健やかに育つことができ、誰もが安心して子どもを生み育てられます。

【子育て】のびのびとすこやかに育つまち

FUTURE
VISION of
MIZUHO
2020-2023



課題

- ◆健康上の課題や家庭環境等の理由から支援を要する家庭が増えており、妊娠期からの切れ目のない支援が必要である。
- ◆子育ての不安を解消し、子育てを楽しむことができるよう支援する必要がある。
- ◆子育ての負担感や孤立感を軽減していくため、交流の場を提供するなど支援し、地域全体で子育てを支えていくことが必要である。
- ◆誰もが安心して保育サービスを受けることができるよう、多様な保育サービスの情報を提供する必要がある。
- ◆児童虐待対応件数は16区の中で少ない状況ではあるが、関係機関等が緊密に連携を図ることで、できる限り早期に虐待を発見し、適切な支援へとつなげ、虐待の発生自体を予防する取り組みを進めていくことが必要である。
- ◆思いやりや豊かな人間性、社会性を身につけられる環境づくりが求められており、保護者や行政、地域等が協働して推進していくことが必要である。

施策

14

安心して子育てができるよう支援します

実現させるための方策

妊娠期からの切れ目のない支援の充実

母子健康手帳交付時に妊婦の状況を把握し、妊娠から出産、育児へと継続的な支援を行います。また、「子育て総合相談窓口（子育て世代包括支援センター）」で、身近な相談に応じます。

安心して子育てできる環境の整備

保護者自身や子どもに健康上の課題があっても、安心して子育てができるよう環境を整え、個々に寄り添った相談や支援を行います。

成長発達に関する知識の普及

発達年齢に応じた子育て教室の開催や地域の子育てサロンに保健師等が出向き、子どもの成長発達に関する知識の普及と育児不安の軽減を図ります。



実現させるための方策

「さくらひろば」の充実

子育て中の親同士が定期的に交流し、子育てに関する悩み等を保育士や保健師等に相談できる「さくらひろば」の活動を充実させることにより、子育てに関する理解を深めます。



親同士の交流の場の促進

地域の飲食店とタイアップを行うなど、子育てに関して同じ境遇を分かり合える親同士が、子連れでおしゃべりできるようなカフェ等のイベントを企画します。

親と地域との接点づくり

子育て中の親と地域の住民が交流でき、つながりを持てるイベントを、学区運営のサロン等と連携して企画します。

情報発信の充実

家庭の状況・ニーズに応じた子育てに関する情報をスムーズに取得できるように子育て支援ネットワークと連携してホームページを充実させます。

実現させるための方策

関係機関との情報共有・連携の強化

子どもと関わりを持つ機関等で支援を必要とする家庭への対応を協議できる場の充実を図り、児童虐待の早期発見につなげます。また、警察との連携を強化し、迅速な支援につなげます。



オレンジリボンの意識づけ

児童虐待防止の意識高揚のため、シンボルである「オレンジリボン」を周知します。また、児童虐待防止推進月間には、子育てや親子のあり方を考えるきっかけとなるようなイベント等を実施します。



「オレンジリボン」は子ども虐待防止のシンボルマークです



施策

17

働きながら子育てできるまちづくりを進めます

実現させるための方策

保育施設などの情報提供

保育施設利用までの手続きや各保育施設の内容に関して、チラシの作成に加え、冊子の配布やウェブサイト掲載など多様なツールでの情報提供の充実を図ります。

説明会・相談会の内容の充実

区役所、地域の子育てサロンや保育所などで、保育施設の利用申込説明会や相談会を開催し、保護者などに保育所等に関する理解を深めていただきます。また、育児休業者や発達気になる子の保護者を対象にニーズに即したきめ細やかな対応を行います。



施策

18

子どもたちが活発に交流できるまちづくりを進めます

実現させるための方策

年齢の異なる子ども同士の交流の促進

様々な年齢の子どもがいっしょに参加できる企画を関係機関と連携して実施します。

子どもを中心とした地域交流の活性化

子どもと一緒に親も参加したくなるイベントを地域と協力して行うことにより、親同士の交流から地域における交流へと発展するような仕組みづくりを支援します。



成果指標

指 標	現状値	目標値
子育てしやすいまちだと思ふ人の割合	68.2%	75%
児童虐待防止のシンボル「オレンジリボン」の認知度	21.4%	50%

